

静かにしていなさい

立ち帰って／静かにしているならば救われる(In returning and rest shall ye be saved)。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 4 / 聖句等の総数 33250 <静かに>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 静かに]
K 出エジプト記	14:14 主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。」	
K 詩編	94:13 その人は苦難の襲うときにも静かに待ちます。神に逆らう者には、滅びの穴が掘られています。	
K イザヤ書	7:4 彼に言いなさい。落ち着いて、静かにしていなさい。恐れることはない。アラムを率いるレツインとレマルヤの子が激しても、この二つの燃え残ってくすぶる切り株のゆえに心を弱くしてはならない。	
K イザヤ書	30:15 まことに、イスラエルの聖なる方／わが主なる神は、こう言われた。「お前たちは、立ち帰って／静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」と。しかし、お前たちはそれを望まなかった。	

主が非常な嵐の中で闘っておられるので、静かにしているようにと言われます。

私たちが心の平安を得られない理由は、自分の力で何とかしようと思ひ、戦おうとするからです。

常在戦場という言葉があるように、人生は常に非常な嵐かもしれません。しかし、その中心に全ての主権を持っておられる神様がおられ、私たちのために戦って下さることを信じるなら、どのような無情の嵐の時にも私たちは**静けさに与(あず)かる**(→好意や情け、力添えなどを受ける)ことができるのです。

【参考】人里離れた所

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 11 / 聖句等の総数 33250 <人里離れた所>11個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 人里離れた所]
S マタイによる福音書	14:13 イエスはこれを聞くと、舟に乗ってそこを去り、ひとり人里離れた所に退かれた。しかし、群衆はそのことを聞き、方々の町から歩いて後を追った。 <i>privately to a solitary place</i>	
S マタイによる福音書	14:15 夕暮れになったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、もう時間もたちました。群衆を解散させてください。そうすれば、自分で村へ食べ物を買って行くでしょう。」 <i>This is a remote place,</i>	
S マタイによる福音書	15:33 弟子たちは言った。「この人里離れた所で、これほど大勢の人に十分食べさせるほどのパンが、どこから手に入るでしょうか。」 <i>in this remote place</i>	
S マルコによる福音書	1:35 朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。 <i>a solitary place</i>	
S マルコによる福音書	6:31 イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。 <i>"Come with me by yourselves to a quiet place and get some rest."</i>	
S マルコによる福音書	6:32 そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行った。 <i>a solitary place</i>	
S マルコによる福音書	6:35 そのうち、時もだいがたったので、弟子たちがイエスのそばに来て言った。「ここは人里離れた所で、時間もだいがたちました。 <i>a remote place</i>	
S マルコによる福音書	8:4 弟子たちは答えた。「こんな人里離れた所で、いったいどこからパンを手に入れて、これだけの人に十分食べさせることができるでしょうか。」 <i>in this remote place</i>	
S ルカによる福音書	4:42 朝になると、イエスは人里離れた所へ出て行かれた。群衆はイエスを捜し回ってそのそばまで来ると、自分たちから離れて行かないようにと、しきりに引き止めた。 <i>a solitary place</i>	
S ルカによる福音書	5:16 だが、イエスは人里離れた所に退いて祈っておられた。 <i>lonely places</i>	
S ルカによる福音書	9:12 日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけましょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」 <i>in a remote place</i>	

現代人だけでなく、イエスもその弟子たちも忙しい時間を過ごしていました。そんな中、イエスや弟子たちは、人里離れた所（寂しい所／a solitary place／a remote place／a quiet place／lonely places）で休息を取られ、祈られた様子などが聖書の随所に出てきます。

神からの真理や預言は、人里離れて沈黙の誓いのなかに人生を送る隠者にこそもたされるという、初代教会の伝統があるのではないのでしょうか。

～生きるヒント 自分の人生を愛するための12章（角川文庫）P.114 五木寛之～

【参考】自分を見つめる時間を持つ

座禅は静処よろし（坐禅儀 道元） 坐って静かに思う、坐って静かに観る。

坐は、坐る。そして禅は、もともとは巴利語（ぱーりーご）で、「静慮」（せいりょ：静かに思う）とか、「静観」（静かに観る）という意味です。

道元は、「欠気一息（かんきいっそく）あるべし」（坐禅儀）と言っています。

欠気一息とは、坐禅のはじめにする深呼吸（鼻から大きく空気を吸い込み、口から吐き出す）を言います。つまり、「欠気一息あるべし」とは、静かな所で身を整えて、深く、深呼吸をください、この一息があるから、今自分は生きている、この一息が、自分の人生のすべてを動かしている、ということを静かに思いなさい、静かに見つめなさいと道元は言っています。

また、お釈迦様は「楽寂静」と言われました。

「ぎょうじゃくじょう」と読みます。「楽」は「願う」の意で、静かな心と暮らしを願うこと。

お釈迦さまも、世の中の雑踏を離れて、静かな所へ行って、自分が生きていることをしみじみと静かに味わいなさいと言われました。

